研修並びに行政視察報告

（誠和クラブ　仲佐　修一）

≪視察日程≫

研修・視察 月　日	研修・視察先	研修・視察施設	研修・視察内容
6 月 24 日 （水）	兵庫県洲本市	ウェルネスパーク五色	エネルギーパーク洲本について
6 月 25 日 （木）	兵庫県高砂市	高砂市工楽松右衛門旧宅	日本遺産北前船寄港地・歴史文化発信事業について
	兵庫県宍粟市	宍粟市役所北庁舎	子育て支援事業について
6 月 26 日 （金）	兵庫県たつの市	たつの市役所	たつの市民病院機構の地方独立行政法人への移行について
	兵庫県朝来市 竹田城跡	竹田城跡	城跡の保存整備、観光誘客体制等について

≪視察内容≫

１．　兵庫県洲本市　人口 38,507 人、面積 182.38 ㎢

●視察目的

ウェルネスパーク五色を拠点とした、洲本市バイオマス産業都市構想を調査研究し、安来市が現在取り組んでいる再生可能エネルギー地産地消ビジョンに基づく各種取組の参考とするため。

●説 明 者　洲本市企画情報部企画課職員

●説明概要　エネルギーパーク洲本について

再生可能エネルギー施設の整備により環境に配慮したまちづくりに資するとともに、施設での見学や環境学習等の受け入れにより広く啓発普及する目的で整備された。

大きな特色として、あわじ環境未来島構想、再生可能エネルギー活用推進条例、洲本市バイオマス産業都市構想等に基づき、菜の花エコプロジェクトによるバイオ燃料製造、竹やぶ解消のための竹チップボイラー、地域貢献型ため池ソーラー発電所、自家消費型小水力発電設備など、先導的な取り組みを産学民官の連携により数多く事業化している。

※竹資源の有効利用

兵庫県では「あわじ竹資源エネルギー化５か年計画」を策定し、放置竹林の適正管理を図ることを目標に掲げた。これに基づき、島内で年間 500 トンの竹チップを製造利用することを目標に、竹の伐採に取り組む団体への支援を行い、環境ＮＰＯは竹チップ製造工場を整備するなど、供給体制の構築を進めた。

※竹チップを主燃料とするバイオマスボイラーの整備

2016 年 3 月、竹チップの出口確保・大量消費のため、国県の補助金を活用し、竹チップを主燃料とするバイオマスボイラーをウェルネスパーク五色の温浴施設「ゆ～ゆ～ファイブ」に設置。

竹チップ製造のために放置竹林の間伐等適正管理を行うことで、有害鳥獣による農業被害の軽減、美しい里山の保全、雇用の創出を図る。また、バイオマス燃料の地産地消によるエネルギー自立と、既存ボイラーの重油消費量半減によるＣＯ２排出削減（約150t/年）に寄与する。

※地域貢献型再エネ事業

洲本市、淡路信用金庫、淡陽信用組合、ＰＳ洲本株式会社、龍谷大学の五者は、豊かで自立した持続可能な地域社会の実現を図るため、相互に協力・連携することとする地域貢献型再生可能エネルギー事業推進に関する協定を締結し、市内二か所の農業用ため池に浮かぶ太陽光発電所を設置。





担当者から説明を受ける



バイオマスボイラー



龍谷フロートソーラーパーク洲本

●考　　察

洲本市の再生エネルギーの取り組みは、合併前の五色町において「五色町地域新エネルギービジョン策定」からスタートする。

この地域で、なぜ再生エネルギーの取り組みを始められたのか担当者にお伺いしたところ、「トップの考えによる」との回答だった。「日照時間が長い」「空いている土地が多い」等の回答を予想していたので、意外な回答であったが、こうした取り組みはトップの判断の要素が大きいこと改めて認識した。

再生エネルギーの取り組みは、風力発電、太陽光発電のほか、放置竹林の竹を竹チップとして利用するバイオマスボイラー、菜の花を利用したバイオディーゼル燃料の精製など広がりを見せている。

再生エネルギーの取り組みは、決して多くの利益を生むものではないが、それに関わる研究者、学生など多くの人が淡路島を訪れ、視察もひっきりなしとのことだった。

安来市においても本年４月から布部の小水力発電が再開した。小水力発電の意義など安来市民にも学習の場が継続的に設けられ、感心を深めていただくとよいと考える。

２．　　兵庫県高砂市　　人口 83,389 人、面積 34.38 ㎢

●視察目的

高砂市の日本遺産「北前船寄港地・歴史文化発信事業」の取り組みを調査研究し、安来市・雲南市・奥出雲町の日本遺産「出雲国たたら風土記・鉄づくり千年が生んだ物語」関連の各種取組の参考とするため。

●説 明 者　高砂市教育委員会生涯学習課、政策部広報観光課、高砂市観光交流ビューロー職員

●説明概要　日本遺産北前船寄港地・歴史文化発信事業について

平成　９年　高砂堀川周辺地区整備基本計画の策定

平成 17 年　高砂みなとまつづくり構想の策定

平成 18 年　兵庫県歴史的景観形成地区等に指定

平成 19 年　たかさご万灯祭のスタート

平成 28 年～30 年　高砂・堀川周辺地区整備事業

工楽松右衛門旧宅を拠点として、江戸時代に繁栄したみなとまち、高砂の歴史文化の魅力を発信し、観光を促進し地域の活性化を目指すため、堀川周辺を整備し、歴史まちづくりを推進する。

平成 30 年　工楽松右衛門旧宅の公開開始



工楽松右衛門旧宅



高砂堀川遺跡



高砂地区歴史的景観形成地区



常夜灯



担当者から説明を受ける



景観形成地区内町内会案内看板



松右衛門帆織機



高砂市オリジナルマンホール蓋

●考　　察,

高砂市は、日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」の構成自治体になっている。この日本遺産の構成自治体は５２自治体であり、島根県では浜田市が構成自治体になっている。

高砂市は、最初から日本遺産の構成自治体になっていたわけではない。４００年前の町並みが残っており、この町並みを生かせないかと試行錯誤のうえ、日本遺産の追加認定にたどり着いた。

高砂堀川周辺地区整備基本計画を策定したのは、平成９年のこと。町並みを生かすためのハード整備は、平成２８年～３０年にかけて行われ、平成３０年に行楽松右衛門旧宅公開が開始された。

平成３０年に日本遺産の追加認定を受けたが、当初は構成自治体ではなく単独の認定を目指して、平成２７年～２９年に申請を続けていたということであった。日本遺産認定はＰＲ効果になるが、構成自治体として年間５０万円の負担があるとのことだった。

鉄の積み出し港として古くから栄えた安来港も北前船の寄港地であり、安来市も日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」の構成自治体になる資格を有すると考えるが、費用対効果もふまえ安来港の追加認定の可否について検討していきたい。

３．　　兵庫県宍粟市　人口 30,949 人、面積 658.54 ㎢

●視察目的

第３期宍粟市子ども・子育て支援事業計画に基づく子育て支援事業の各種取組を調査研究し、安来市のやすぎっこしあわせ計画による各種施策の参考とするため。

●説 明 者　宍粟市健康福祉部子育て支援課職員

●説明概要　宍粟市子育て支援事業について

※第３期宍粟市子ども・子育て支援事業計画

基本理念　つながり　はぐくみ　子どもが輝くまち

※基本目標

・子どもの成長を支える基盤づくり

・安心して子どもを産み育てる環境づくり

・子育て環境をみんなで支える体制づくり

・健やかな子どもをはぐくむ環境づくり

※こども家庭支援センターでの取組

・母子健康手帳交付　・予防接種について　・ママの心や身体の相談

・しそうスクスク応援プラン　・乳幼児健診　・赤ちゃんとママの教室

・育児の相談　・ほっとママ講座ルーム　・離乳食教室　・子育て支援センター事業

●しそう木育おもちゃ広場＆木育ワークショップ

しそう木育おもちゃ広場＆木育ワークショップは、木のおもちゃで遊びながら「木のぬくもり」を肌で感じ、木の端材を自由な発想で組み合わせて何かを作ることで、「個性豊かな心」を育むことをめざします。



●しーたん広場



　木のおもちゃで自由にあそべます

　しーたん広場は、お子さんとその保護者が一緒に遊んだり、子育ての相談ができたりする場所です。里帰り中の人やおじいちゃんやおばあちゃんとの利用もできます。

●ほっと mama ルーム



　ほっと mama ルームは、妊婦さんから産後６か月頃までのママと赤ちゃんの部屋です。

　みんなで話をしながらゆったりとした時間を過ごしてみませんか。里帰り中の人も利用できます。

●親子りとみっく教室

　リトミックで育む未来の力

　音楽を通じて体を動かすことで、子どもの力を育むことを目的に開発されたリトミック。音を楽しみながら、表現力、創造力、集中力を養います。

　ピアノに合わせて歌ったり、体を動かし親子でスキンシップをしたりして楽しみましょう。動きやすい服装でお越しください。リトミック終了後は絵本の読み聞かせや保健師、栄養士のミニ講座もあります。

　なお、教室の参加には申込みが必要です。

●ベビーマッサージ＆ママのストレッチ

助産師による「ベビーマッサージ＆ママのストレッチ」を開催します。
参加希望の人は事前に電話で申し込みください。当日参加もできます。
なお、予防接種の日とその翌日は、ベビーマッサージは行えませんのでご注意ください。



●しそう子育て応援アプリ“スクスク

”スクスク”は、宍粟市から子育て世代のみなさまへ、子育てに関する情報を、よりタイムリーに、よりダイレクトにお届けするためのアプリです。
宍粟市からの情報発信だけでなく、利用者のみなさまがお子さんの成長を記録したり、予防接種の予定や記録を入力いただくことで、お子さんの成長曲線を確認したり、予防接種のリマインド通知が届くなど、子育てをサポートしてくれます。







担当者から説明を受ける



山崎子育て支援センターしーたん広場



視察受け入れの感謝の意を込めて安来節を披露



宍粟市役所北庁舎前にて

●考　　察

宍粟市は、急速に出生数が減少していくなか、充実した子育て支援施策を展開している。その柱は、妊娠期から子育て期まで継続して相談支援等を行う「宍粟市こども家庭支援センター」であり、広大な市域においても子育て家庭が孤立しないよう４地区（山崎、一宮、波賀、千種）に子育て支援センターを設置し、グループ活動等の支援を行っている。

子育て支援施策のメニュー自体に目新しさは感じないが、その充実度に特徴があると感

じた。他の事業と比較して、４地区（山崎、一宮、波賀、千種）の子育て支援センターの運営予算を確保していくのも悩ましいところだろうと推察する。

様々な子育て支援施策の中で、生活困窮者世帯を対象として学習支援事業を実施しているとのことだったが、安来市議会３月定例会議において、「こどもの貧困解消」について質問したことを思い出した。

３月定例会議においては、「安来市として、子どもの学習・生活支援事業の実施に向けた検討を進めている」と答弁されており、宍粟市の取り組みと重ね合わせながら今後の展開を注視していきたい。

４．　兵庫県たつの市　人口 69,891 人、面積 210.87 ㎢

●視察目的

令和２年４月１日、たつの市民病院から独立行政法人たつの市民病院機構に経営形態が変わった際の経緯や独立行政法人移行過程における議会、病院職員、市民等に対する説明などのやり方を調査研究し、安来市立病院の独立行政法人化に向けた取組の参考とするため。

●説 明 者　たつの市健康部健康課職員

●説明概要　たつの市民病院機構の地方独立行政法人への移行について

たつの市民病院は、たつの市御津町に位置する市内最大規模の病院で、「市民に必要な医療の提供」「地域包括ケアシステムの貢献」「健全な経営の取組」を基本方針として運営しています。

平成２４年には新病院が建設され、市民の多様な医療ニーズに応えるとともに、安全・安心の確保を目指した医療の提供を行ってきました。しかし、これまでも市民病院の経営改革・経営改善に努めてきましたが、赤字傾向が続く厳しい状況が課題となっていました。

このような状況から、今後の安定的かつ持続可能な病院形成を検討するため、市は外部有識者を含めた「たつの市民病院経営検討委員会」を立ち上げました。

経営検討委員会では約４か月間にわたり議論が行われ、市は急速な高齢化の影響等から今後予想される医療環境の変化に対応するために、職員の雇用を継続でき、病院運営の自由度が増すことができる「地方独立行政法人」への経営形態の変更が適切との経営検討委員会からの答申を受けて、市民病院の地方独立行政法人化を進める方針を決定し、令和２年４月１日から「地方独立行政法人たつの市民病院機構」として運営をしていくこととなりました。

平成 30 年 ５月　たつの市民病院経営形態検討委員会の設置、市長が市民病院の経営形態について諮問

平成 30 年 ９月　経営形態検討委員会が「地方独立行政法人が最も適切」とする答申書を

市長に提出

平成 30 年 10 月　答申を受け、市として地方独立行政法人化を進める方針を市長が市議会にて表明

平成 31 年 3 月　「地方独立行政法人たつの市民病院機構定款」、「地方独立行政法人たつの市民病院機構評価委員会条例」が市議会にて議決

令和 元年 9 月　「中期目標」が市議会において議決

令和 元年 12 月　地方独立行政法人化への関係条例等が市議会において議決

令和　2 年 3 月　兵庫県知事が地方独立行政法人化を認可

令和　2 年 4 月　「地方独立行政法人たつの市民病院機構」設立



担当者から説明を受ける



たつの市議会議場にて

●考　　察

たつの市は、平成２４年に病床数は１２０床の新病院「たつの市民病院」を建設した。病院の経営改善を進めるなかで平成３０年に地方独立行政法人への移行を決定し、令和２年４月に独立行政法人へ移行した。

地方独立行政法人移行決定から実際の移行まで１年半、一番の課題は職員の同意を得ることだったと説明を受けるなかで感じた。公務員という安定した身分を失うだけでなく、処遇が下がる職種の職員もいた。交渉は難航し、最終的に職種転換し市職員に残る選択をした職員も２名いたとのことだった。

安来市立病院は今年度１年で独立行政法人化を計画し、６月定例会議で「定款」を定めたが、今後、職員の同意をどのようして得ていくのか大きな課題であると考える。

たつの市の法人への移行スケジュールを参考にしながら、適時適切に安来市立病院への法人移行に向かって助言等行っていきたい。

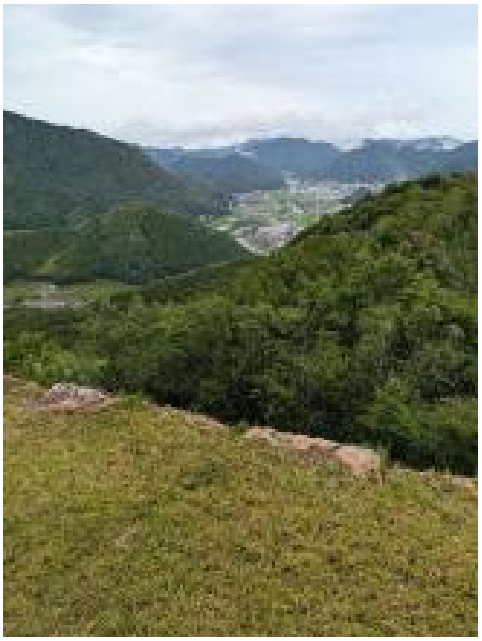
５．　兵庫県朝来市竹田城跡　　城跡の保存整備、観光誘客体制等について







登山途中「落ちない岩」



本丸からの眺望



竹田城跡入口料金収受棟

●考　　察

「天空の城」とも呼ばれている竹田城に登るのは初めてであった。早朝に登る人が多いと聞いたことがあり、城跡から見える風景を想像していた。

直前に訪れた龍野城は、赤松氏の居城であったが、その赤松氏が竹田城に移り、領民に慕われた歴史があることがわかった。当時は、「播磨」「但馬」と国が分かれていたが、この程度の距離感だと意外と容易に移動させていたのだと感じる。

竹田城に登るには、自家用車で近くまで行くことはできず、自家用車を駐車して残り８００メートル地点までタクシーで移動することになる。残り８００メートルも急こう配であるが歩くしか方法はない。

たどり着くのに、かなりの労力を要するのがその魅力を高めている側面もあるが、高齢者や障がいをお持ちの方には優しくない。城跡からの風景は、やはり「日本のマチュピチュ」を彷彿とさせた。

安来市には、富田月山城がある。以前は、樹木が生い茂り登りにくい城跡であったが現在は整備され登りやすくなった。竹田城に比べれば、登るのは容易だと感じる。

竹田城に登った視点からすると、月山富田城も高齢者や障がいをお持ちの方から見たらどうなのか考える必要がある。

竹田城には、海外からの旅行者が数多く登っている様子であった。月山富田城にも多くの方に来ていただくようＰＲにも課題があると感じる。どうしたら多くの方に来ていただけるのかストーリー性等検討してみたい。